

## 第2回川中・下側分科会議事要旨

- 個別施策 仮番号1 森林情報の集積・一元化と活用
  - ・データ共有化の範囲はどうするか。(小原委員)
  - ・川中・下側は、どこにどんな木が生えているのかという情報が必要。将来的に毎木データに近いようなものとリンクできるシステムにする必要がある。(山崎副会長)
  
- 個別施策 仮番号2 間伐の推進(緊急)
  - ・施業履歴10年なしの条件では、長伐期施業を狙った森林も放置となってしまう。(小原委員)
  - ・旧額田と岡崎で分ける必要はないのではないか。(鈴木オブザーバー)
  
- 個別施策 仮番号3 不明瞭な林地境界の解消・明確化(緊急)
  - ・なし
  
- 個別施策 仮番号4 施業の団地化・集約化の推進(緊急)
  - ・なし
  
- 個別施策 仮番号5 路網整備の促進(緊急)
  - ・林道、作業道については数値目標を出さなくて大丈夫なのか。数値目標はなくとも、目標とする整備状況等について記載が必要なのではないか。(山崎副会長)
  
- 個別施策 仮番号6 高性能林業機械の導入促進
  - ・現行ビジョンの高性能機械3点セットは当時の最新機械なので、こだわらずに機械化の推進が良いと思う。(鈴木オブザーバー)
  - ・機械化のみでなく、手作業(職人)の作業体制も必ず必要になる為、一緒に検討が必要なのではないか。(小原委員)

➤ 個別施策 仮番号7 木材製品の利用促進と利用先の拡大

- ・この施策は、去年より利用が少し増加したというレベルではなく、100年後も林業がやっていける礎を作るといった、本気の具体的な施策が必要だと考える。(山崎副会長)
- ・大分県で行われている木造審議会(新築物件等を精査してなぜ木造化・木質化できないのかを有識者等に意見を聞く会)を作ることは、岡崎市でもできると思う。(山崎副会長)
- ・岐阜県の事例(建築計画予定について提出を受け、計画予定に対して、先行して、木造化、木質化するための講習会を担当者向けに行った。)等を取り入れたら良いのではないか。(山崎副会長)
- ・木造化検討委員会の効果の検証が必要。今まで木造化は無理だと諦めていた建築に、できるのではないかと発現する外部の有識者を連れてこないと促進はできない。(山崎副会長)
- ・安城市が5年計画で6つの小学校を木質化しますと宣言していた。岡崎市でもできるのではないだろうか。(小原委員)
- ・民間の活動として、オール岡崎のチームで企画住宅を作っていこうというプロジェクトを12月に立ち上げた。協議会、市と連携していけないか。(小原委員)
- ・木造化・木質化のプロジェクトを動かしていくための支援委員会を作るべきではないか。(山崎副会長)
- ・木材の利用の方法を理解する勉強会を立ち上げた。身内の勉強会ではなく、外に発信するために市と連携したい。(山崎副会長、小原委員)
- ・補助金を出す施策もありだが、補助金がなくなったら寄り付かなくなる。建築系に補助を出すのは大きな金額がかかる為、その額の一部で、建築主事向けに講習会を行う方が有意義だと思う。木造化は建築系からは言いだしなないので、森林行政側から働きかける必要がある。(山崎副会長)
- ・有名な建築の先生の講習会の年1回開催を5年間行うという目標でも良いかもしれない。設計士にも公開し、建設主事を連れてくる。(山崎副会長)
- ・建築側が木材を使うと聞いていなかったところに、木材利用を提案できるチームを作る必要がある。そのチームに若手を所属させて設計手法等を学べる機会を作るとその若手が次につなげていける。それを市としてやる必要があるのではないか。(山崎副会長)
- ・岡崎市は街も森も製材業をやっている会社もある。せっかくチームがそろっているのに、木材利用に関してもっと攻めの態勢に入らないともったいない。(山崎副会長)

➤ 個別施策 仮番号 12 多様な森林づくりの推進

- ・長伐期施業の支援を行うと記載があるが、大径材はコストに見合うようなマーケットが現状はないのではないか。(山崎副会長)
- ・針広混交林化等を目指すのは、森としてのコストは今まで以上にかかる。(山崎副会長)
- ・「みんなのもの」という表現や「人が自由に入って遊べる空間」は誤解を生む恐れがある。共有財産であるという意味で、専門用語でいうとコモンズだと思う。コモンズの定義等を調べて使える文章を入れるのが良いのではないか。(山崎副会長、小原委員)
- ・学校教育との連携は、「里山の近隣」のみでなく「都市部」も入れるべきだと思う。(山崎副会長)

➤ 個別施策 仮番号 14 市民への森林環境教育の推進

- ・ノルウェー発祥の LEAF のように 1 回の環境教育ではなく、ステップアップにつなげていくという形の環境教育を目指したい。(山崎副会長)
- ・もう少し踏み込んだ森林環境教育とそれに関する情報発信のロードマップを立てた方が良いのではないか。(山崎副会長)

➤ 個別施策 仮番号 15 市民・企業等の森林づくりの推進

- ・マッチング(サポーター登録)は大小問わず年間 10 件くらいは間違いなくやっつけていける。10 年後の目標は 100 でよいと思う。(小原委員)
- ・サポーター登録してくれたら公共工事の入札の際に有利になるポイントを付けるというのはどうか。(小原委員)

➤ 個別施策 仮番号 16 森林づくりに関する情報の整備と発信

- ・HP 作成等はセンスが必要になる部分だと思うので、そういう人材登用もありではないか。(山崎副会長)
- ・SNS はフォロワーが 2100 年には岡崎市民全員というのを目標とするべきではないか。(山崎副会長)

➤ 個別施策 仮番号 17 森林所有者の意識向上

- (所有森林を活用する意識の向上等に名称を変更)

- ・何を啓発するのか目的の記載が必要。津市では森林環境譲与税関係の意識調査と相談会を実施したところ、ずいぶんと空気が変わったそうなので、意味のある取組だと思う。相談窓口を明確に設置するとよいのではないか。(山崎副会長)

➤ 個別施策 仮番号 18 林業の担い手の育成・確保

- ・新規就労者の募集は、豊田市のように林業について未経験者を雇用し林業アカデミー等に送り込むことを行っている方法も良いのではないかと思う。(山崎副会長)
- ・既存就労者のスキルアップの取組として、周辺の林業アカデミーや大学校等の講習をケースに応じて活用するというものがあったとしても良いのではないか。(山崎副会長)
- ・木材利用人材についても、いくつか取組を記載したい(山崎副会長)
- ・1つ目は明らかに建築教育が必要である。木造建築教育の会を作るか、作るよう誰かに働きかける必要がある。市の行政の建築系の方にも来ていただく必要がある。(山崎副会長)
- ・2つ目は、地域材教育が必要である。(山崎副会長、小原委員)
- ・3つ目は、流通に関するコーディネーターの育成が必要。川下と川上を的確に科学的につなげられる方が必要。(山崎副会長)